

審査員講評

表彰式における審査員の講評を誌面の都合上要約してご紹介します。
(環63号より抜粋)

内藤 廣

建築家・東京大学大学院教授



提案部門は多種多様なガラスの在り方の提案が受賞しました。最も目立ったのは金賞の畑・石木案です。床の素材としてガラスの小さなブロックを敷き詰めるという単純なものでしたが、カーテンの隙間から漏れてくる光の美しさは、実際に作りたいたいと思わせるだけの魅力がありました。模型写真は冷凍庫で作った氷を敷き詰めただけという、安上がりなプレゼンテーションです。しかし、大切なのは見過ごしてしまう身近なものの中に、これまで誰も見つけたことのない美しさを発見したことです。また作品例部門にも優れた作品が多数集まり、ガラスブロックの洗練された使い方、新しいガラス素材による独特の空間、真空式ソーラーパネルの配置のアイデアなど、どれも実際に体験してみたい作品でした。金賞の安田案のKUMAKIRIは、僅かなディテールの違いで、これまでのガラスブロックの壁面とはまったく異なる透明感のある壁が出現しました。素材に対する研鑽と、メーカーと一体になった技術開発のすばらしい成果だと思います。新しい空間を想像することは、新しい素材を誘発することです。また、新しい素材は新しい空間を誘発します。こうしたコンペの企画は、設計者とメーカーが交信をする貴重な場を提供しているのではないかと、という思いを深くしました。

岡本慶一

日建設計

代表取締役副社長



21世紀は「環境の世紀」とも「心の世紀」ともいわれ、私達のライフスタイルにも変化の兆しが表れてきています。ガラス質との関わり方もこうした流れの中で捉え直す必要があります。新しい時代の可能性を示唆する提案であるか、心に安らぎを与える身体化された空間への提案であるかを評価軸としました。提案部門金賞の畑・石木案は、触覚を刺激するほのぼのとした暖かき、柔らかかき誘惑。素足でガラス粒に触れたときのひんやりとした感触も伝わる際立った提案でした。銀賞の西本・山下・春名・北口案は、中庭の雨という自然条件によって変化するエッチングガラスの透明度によって、住空間の関係が変化するという暖味さ、柔らかさを評価しました。銅賞の鶴岡・橋本案は、隣家とのすき間を光壁に変えるアイデアで、光ダクトを住宅に応用するサステナブルな考え方を評価しました。また作品例部門金賞の安田案KUMAKIRIは、審査員全員一致の金賞。新しい工法によって、今までにないガラスブロックの新しい魅力を訴求する意欲を大きく評価しました。銀賞の南平案のSencourt IIは、ブラックライトとの組み合わせによるベルーナの使い方が幻想的で美しい作品でした。

橋本夕紀夫

橋本夕紀夫デザインスタジオ
代表



素材自体は大変魅力的なのに、いざそれを使って施工してみると、単体で見たときほどの魅力が薄れてしまったというように感じることはないだろうか。素材は納め方によってかなり表情を変えてしまう。作品例部門金賞の安田案KUMAKIRIは、ガラスブロックという素材を活かきった作品と言える。新開発の乾式ガラスブロック工法によって従来のガラスブロック壁とは一線を画す透明感があって美しい仕上がりになっている。また提案部門は力作揃いで審査は難航した。全体の印象としてはコンセプトが明快なものが多く、大変いい傾向であると思う。金賞の畑 克敏+石木直俊案はシンプルなコンセプトではあるがガラスの持つ美しさを充分に引き出しながらもガラスを触感的に捉えたところが非常に興味深かった。人の体温が触れるとガラス質が変化する佳作の近藤直人案 (thermochromism glass) も魅力的だが、どのようなシチュエーションで使われるか、というイメージがもう少し伝わればさらに良かったと思う。この二つの作品はガラスという素材が人間の五感に訴えかける様々な可能性がある、ということを考えさせられるものであった。

大工信隆

日本電気硝子

執行役員 建材事業部長



第12回空間デザイン・コンペティションを無事に迎えることができ、主催者の一員として厚く御礼申し上げます。今年の提案部門では、「柔らかいガラス質の空間に住まう」という課題であり、これまでの「ガラス＝透明感・清潔感」だけでなく、新しいタイプのガラス質の提案を期待しました。376点というたくさんの応募を頂き、ガラス素材の可能性を再確認しました。また、作品例部門でも、192点というたくさんの応募を頂き感謝しております。まず「提案部門」ですが、1枚の用紙にビジュアル的に表現されている作品は、どれも新鮮なものばかりで驚きました。金賞を受賞された畑 克敏+石木直俊案では、居住者の足裏を刺激する突起であり、室内に光を充満させる床であり、ガラスならではの「触覚」の可能性を見出しました。また「作品例部門」は既存製品の魅力を引き出して頂いた作品が多く激戦となりました。金賞を受賞された安田幸一氏の「KUMAKIRI」は、ガラスブロックの乾式工法の開発に加えて、今までにない透明感と重量感を併せ持つ壁面が印象的でした。